

会長を語って



「組織強化が最大の課題、商工会の存在意義をアピール」

栗原南部商工会

会長 渡邊 一正氏

○会長さんのご商売についてお聞かせください。

業種は一般土木を中心とする建設業を営んでいます。二十九歳の時に現在の事業を継承し、二代目経営者として現在に至っています。

○地域の商工業の状況はいかがですか。

栗原市は、建設産業と農業が基幹産業であり、誘致企業も少なく一般的な農村部に見られる産業構造です。今、建設業界は公共事業の減少もあり、どうやって生き残るか、新しいことを始めるかの過渡期にあると思います。

また、地元商店街では、大



中将会で製作した神輿

型店の影響により購買力が流出し、厳しい状況が続いておりますね。

○お仕事以外で地域に関わっていることはございますか。

築館地区で、企業、商店、医者などの若手後継者で構成される「中将会」に参画し、五年間会長職を務め、地域の異業種交流の重要性を認識いたしました。その活動の中で、一千万円を投じて神輿を製作し、現在、「築館薬師まつり」で活用しております。

○会長さんのご趣味についてお聞かせ下さい

昔から運動が好きなので、ジョギングをしています。昨年、ホノルルマラソンに参加し、42.195キロ走ってきましたよ。タイムは五時間五十六分四十六秒でした。登米のかっぱマラソンや松島マラソンには参加したことはあったのですが、フルマラソンは初めてでした。五十歳の記念にと思い、一人で参加してきました。

○最後に会長さんの抱負や今後の方針をお聞かせ下さい

現在、築館地区はバイパス問題と大型店（くりこま高原駅西側）の出店、商店街空洞化対策、旧公立築館病院跡地の活用方法による

総合的振興計画が求められております。商工会としても県の補助事業である商工会等振興調査事業を行い、大型店との共存共栄を主眼とした計画の立案を協議していきたいと考えています。

合併後の商工会としては、組織強化が最大の課題と考えます。会員への支援はもちろん、地域における商工会の存在意義をアピールし、行動するといった役割職員の意識改革が最大のテーマであると考えています。

がんばるお母さん

七つ森の自然を大切に



(有)松緑亭 高富

高橋 栄子さん 大和町商工会

大和町の名勝地「七つ森」、この地位に適した環境のすべてが、当料理店に対しアイデアや大きなパワーを頂いて商売を営んで36年になります。自然を売り物にする事をモットーに、風景や、鳥の声、水、人のつながり、季節の食材などで、お客様の心を癒しを致しております。

鑑賞会など、ミニ観光無料案内、このようなサービスは大変ですが、いつもご利用して頂くお客様に感謝のお返しとして毎年企画しております。ブライダル、法要、会議など、仙台北部工業団地、大和陸上自衛隊、全国のお客様が食味をして頂ける事の喜びは嬉しい事です。美味しいものを、ただ召し上がって頂く事だけでなく、お店に入るまで想像の味、そして、本当の料理の味、最後にお店を出てから、またいつか来て食べたいと思う味、こんな三つの味の言葉をもっとにして

お店の中には、私の描いた七つ森の風景など、日本画、洋画、墨絵など小さな美術館のように地域を知っていただく事で、お店の印象を出しております。

私は、お客様にこの地域ならではの、とっておきの食材、店内に展示した原生林、蛍の



地元のそば粉を使用した七つ森そば

町おこしとして、料理の中に地元のおそば粉で、七つ森そばを考案し、大和町のブランドになり、もう一つのビジネスチャンスを頂きました。仙台の伊達な味、七つ森そばのギフト箱の絵も七つ森全景を描きました。皆様には、大変喜んで頂いております。

町の活性化はすなわち当店の発展の源となるよう、率先してアイデアを実行に移し、これからも歩み、消費者の方々と手を繋いで行きたいと願っております。